町（まち） 山本（やまもと） 日向前遺跡（ひなたまえ）

町道752号線箕輪町南小河内立町線拡幅
工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

２００９年

上伊那郡箕輪町教育委員会

例　　言

1　本書は、町道752号線箕輪町南小河内立町線拡幅工事に伴って実施した、長野県上伊那郡大字東箕輪2,873番地1先他に所在する、町・山本･日向前遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び本書作成に係る整理作業等の業務は、箕輪町教育委員会が実施した。

3　本書の執筆及び編集は、赤松　茂、根橋とし子、井沢はずきが行った。

4　出土遺物のほか、実測図・写真類及び本報告書作成に係る図版類は、すべて箕輪町教育委員会が保管している。

5　発掘調査及び本書の作成にあたり、以下の機関並びに方々にご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

南小河内区、安部嘉徳、井沢勝正、金沢阿砢、藤沢太良、根橋千夏

凡　　例

1　挿図の縮尺は、各図表題の右側及び図版内下部（スケールを有するものも含む）に表示した。

2　遺構実測図及び一覧表内の土層と土器観察表の色調は、『新版　標準土色帖』を用いて記してある。

目　　次

1　遺跡の環境と発掘調査の経過 ……1
2　調査概要と体制 ……2
3　調査結果と土層堆積状況 ……2
4　検出遺構 ……4
5　まとめ ……4

報告書抄録

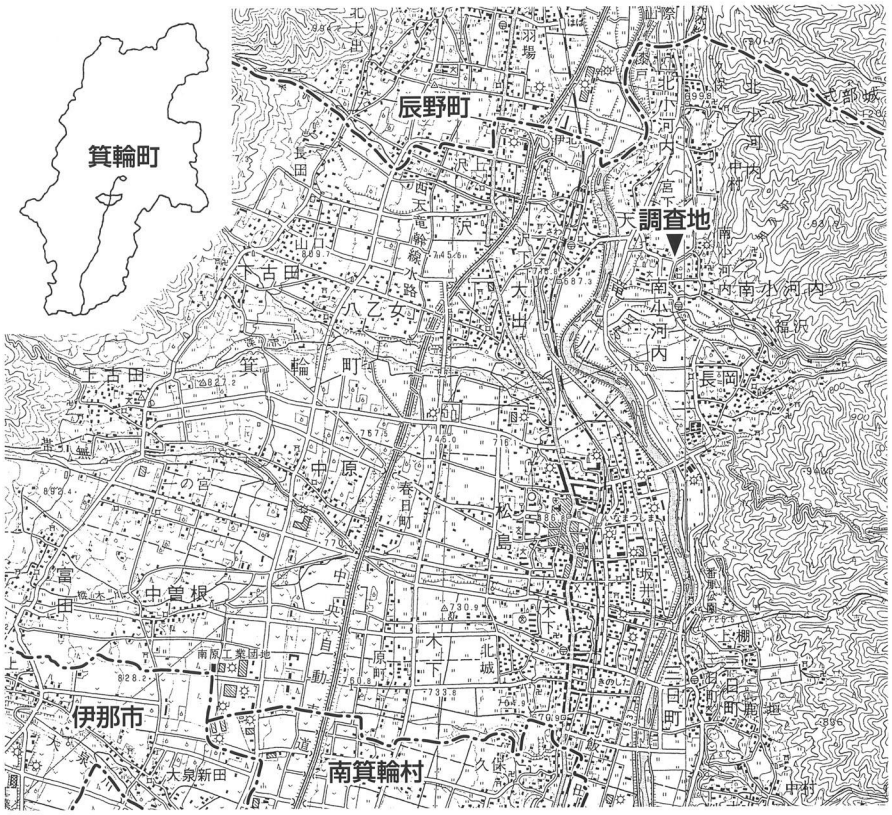
1. 遺跡の環境と調査の経過

箕輪町内には、旧石器時代から近世に及ぶ遺跡が分布しており、現在包蔵地 182 箇所、古墳 27 基、城跡 13 箇所が確認されている。天竜川東部地域には、天竜川段丘突端部、中小河川の両岸、山麓の裾部や舌状大地上に各時代の集落遺跡を主体に立地をみせる。

町、山本、日向前遺跡は、箕輪町の東部南小河内区に所在し、沢川左岸段丘上に位置している。遺跡は、東部山麓の裾から河川の縁に沿って帯状に分布しており、これまで発掘調査例はなくその詳細は不明であるが、遺跡分布調査結果によると縄文・平安・中世・近世に渡る複合遺跡であることがわかっている。特に、日向前遺跡の所在する果樹園からは、過去に縄文中期中・後葉の土器の他、打製・磨製石斧等の石器類が数多く採集されており、一帯にこの時期における集落跡が埋没しているものと推察される。

今回、同区内を縦断する町道 752 号線の路線の拡幅と水路改修工事を実施することとになった。開発計画が上記遺跡内に位置することから、平成 19 年 11 月に開発担当の町建設水道課と町教育委員会の両者間で係る文化財の保護協議を行い、270㎡ の工事対象範囲において町・山本遺跡は既存道路の改修のため工事立会いを、日向前遺跡は新たに拡幅される範囲について記録保存を目的とした緊緊急掘調査を実施することとなった。

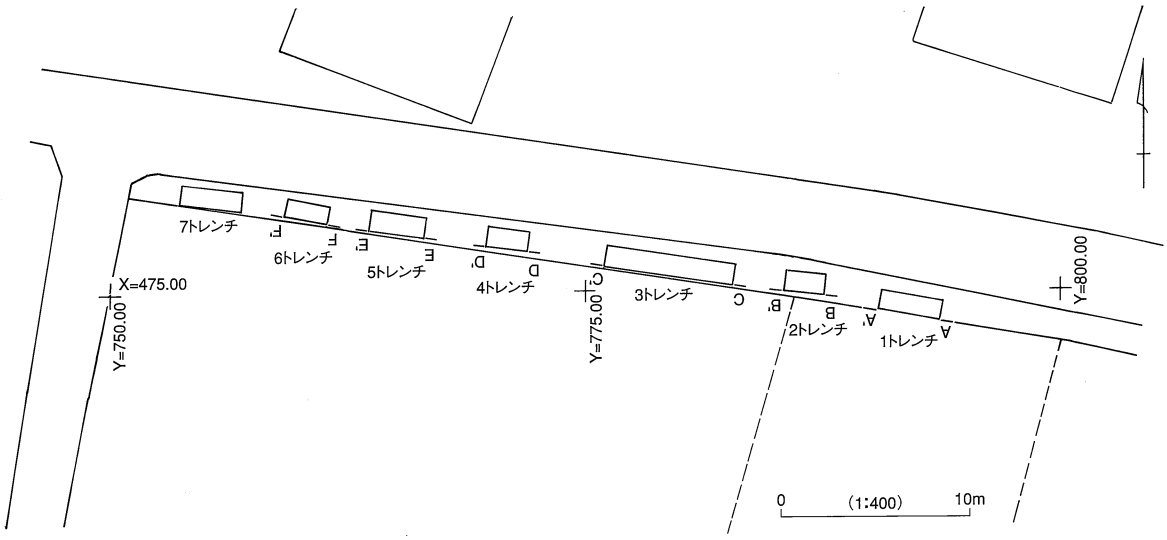
発掘調査は、同年 11 月 11 日から開始し、同月 29 日に日向前遺跡での現場作業を終了し、その後整理作業を開始し、平成 21 年 3 月 27 日の一切の業務完了を持って本書の刊行に至った。



第 1 図　調査地位置図（1:50,000）

2. 調査概要と体制

1　遺　跡　名　　町　山本　日向前遺跡
2　所　在　地　　長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪 2､873 番地 1 先
3　調 査 面 積　　270㎡
4　事 業 期 間　　発掘調査　平成 20 年 11 月 11 日～ 11 月 29 日
　　整理作業　平成 20 年 11 月 30 日～ 21 年 3 月 27 日
5　調査主体者　　箕輪町教育委員会
　事　務　局　　生涯学習課文化財係
　調査担当者　　赤松　茂
　調　査　員　　根橋とし子
　調 査 団 員　　井沢はずき、泉沢徳三郎、伊藤　輝彦、今関　貞夫、大串　　進、大串　久子、小川　陽三、春日　誠子、川合　佐一、唐澤　清光、小松　峰人、松崎　仲子、向山　英人（50 音順）



第 2 図　調査区設定図

3. 調査結果と土層堆積状況

日向前遺跡の調査は、道路の拡幅工事ということで長さおよそ 60 m、幅 1.5 ～ 2.0 mと狭い調査区であった。そのため、供用する道路の通行と水路への影響を考慮し、重機による表土除去による大掛かりな調査は困難であると判断し、調査区内で任意に 7 本のトレンチを設定し、手掘り作業による遺構の確認を行った。

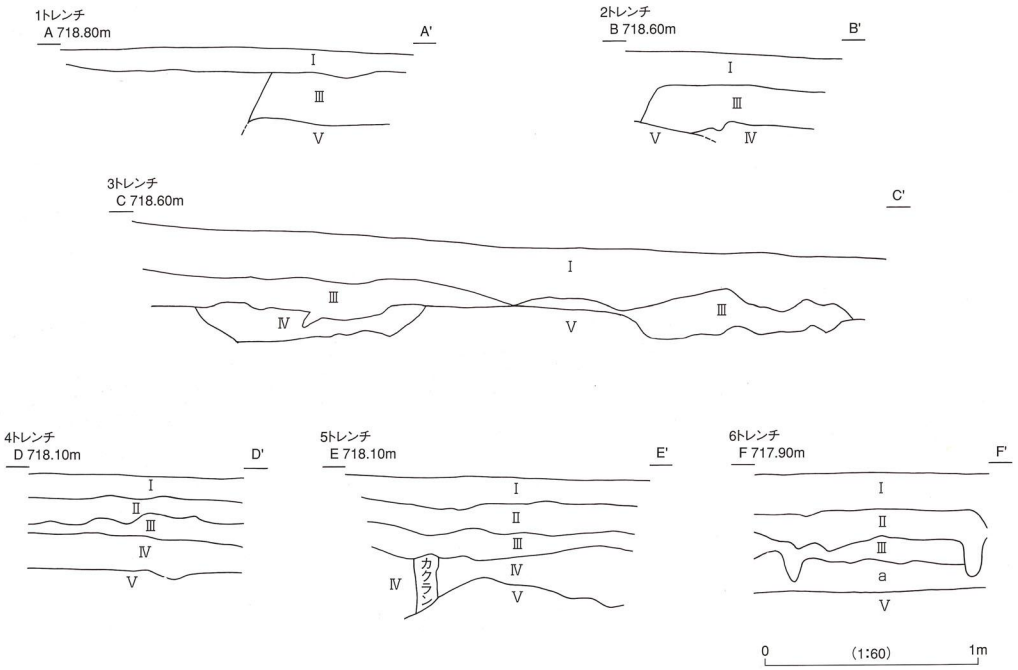
その結果、1 ～ 5 トレンチでは、Ⅰ層からは近現代の陶・磁器片が、Ⅱ～Ⅳ層で縄文時代中期中・後葉の土器片及び黒曜石剥片、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器片、中・近世の陶・磁器、土師器系土器片が出土したが、遺構は確認されなかった。6 トレンチでは、第 3 層下 a 層が、焼土及び炭化物を含む竪穴住居址と思われる遺構覆土と捉えた。しかし、遺物の出土はなく、遺構の時期及び付属施設等の内容を確認することは出来なかった。調査は、地表からの深さが 1.2 mを超え崩落による作業員への安全を考慮するとともに、調査後の工事で掘削が遺構確認面まで及ばないこともあり、土層堆

積状況の記録までとした。7トレンチでは、地表より0.5ｍの深さより第Ⅴ層確認面で竪穴住居址１軒が検出している。

なお、町及び山本遺跡での立会い調査では、遺構・遺物の検出はなかった。

調査区の土層堆積状況は、次のとおりに分層された。

第Ⅰ層：10ＹＲ３／３（暗褐色）　畑の耕作土。小礫10％含む。締り中、粘性弱。
第Ⅱ層：10ＹＲ３／３（暗褐色）　小礫10％含む。締り強、粘性中。
第Ⅲ層：10ＹＲ３／４（暗褐色）　小礫5％、ローム粒子を30％含む。締り強、粘性中。
第Ⅳ層：10ＹＲ２／２（黒褐色）　小礫10％含む。締り中、粘性強。
第Ⅴ層：2.5ＹＲ４／２（暗灰黄色）　小礫30％、部分的に粗砂を含む。遺構確認層。締り強、粘性中。
ａ層：10ＹＲ２／３（黒褐色）　遺構覆土。最下部に貼床と思われる硬化層を確認。
ローム粒子25％、部分的に焼土が含む。締り中、粘性強。



第３図　トレンチ土層断面図

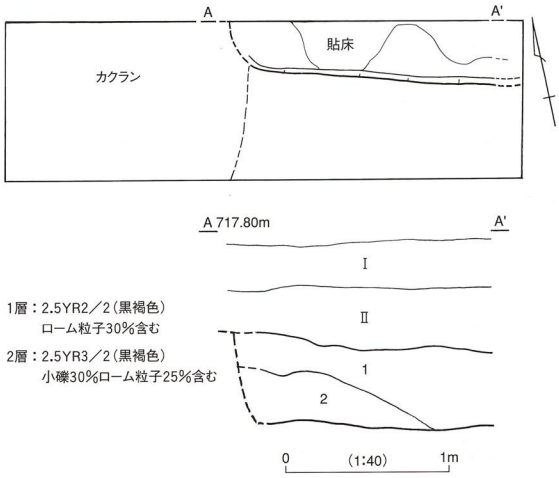
５トレンチ土層堆積状況（北方より）

６トレンチ土層堆積状況（北方より）

4. 検出遺構

7トレンチにおいて、竪穴住居址1軒（1号住居址）を検出した。世界測地系X＝479.849、Y＝756.857に位置する。検出範囲は、南北0.4ｍ、東西1.6ｍ、床面までの深さは0.6ｍを計測し、隅丸方形を呈する住居址の南西コーナーに当たる部分的な範囲での検出に止まり、覆土は2分層された。また、床は部分的に堅固な貼床が施されていた。住居址の主体は、北部の調査区外に埋没するため、全体の規模と附属施設等は確認できなかった。

遺物は、土師器の甕、須恵器の甕・坏・蓋が出土し、10数点余りの小破片であった。これら遺物の観察から、本住居址は平安時時代（9世紀前半）の時期と捉える。



第4図　7トレンチ・1号竪穴住居址実測図

5. まとめ

今回実施した調査は、3遺跡が接する既存町道の拡幅による対象範囲が狭いこともあって、遺跡の内容や性格を明らかにすることはできなかった。特に日向前遺跡は、調査地の南部に隣接する果樹園から縄文時代中期を主体とする良好な遺物が出土している。今回の調査地においては、包含層から同時期の遺物が出土しているが、集落の中心部からは外れた個所に当たるものと解釈できる。しかし、平安時代の住居址を検出したことは、今回の調査で最も大きな成果であり、縄文時代よりも広範囲に集落形成が及んでいたことが判った。今後も近隣での開発がある場合には、今回の成果を考慮し、遺跡の保護に十分注意していく必要がある。

1号竪穴住居址（南西より）

最後になりましたが、地元南小河内区並びに近隣住民の皆様に、本書の刊行を持ちまして厚く御礼申し上げます。

報告書抄録

ふりがな	まち　やまもと　ひなたまえいせき
書名	町　山本　日向前遺跡
副書名	町道752号線箕輪町南小河内立町線拡幅工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
著者名	赤松　茂　　井沢はずき　　根橋とし子
編集機関	箕輪町教育委員会
所在地	〒399-4601　長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地　㈹Tel 0265-79-3111
発行年月日	2009年3月27日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
町遺跡（いせき） 山本遺跡（やまもといせき） 日向前遺跡（ひなたまえいせき）	長野県（ながのけん） 上伊那郡（かみいなぐん） 箕輪町大字（みのわまち おおあざ） 東箕輪（ひがしみのわ） 2,873番地 1先他	20383	114 115 117	35° 55′ 46″	137° 59′ 65″	2008.11.11 ～ 2008.11.29	270	道路拡幅 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町遺跡	散布地	なし	なし	なし	
山本遺跡	散布地	なし	なし	なし	
日向前遺跡	集落址	縄文時代 平安時代 中・近世	竪穴住居址　2軒	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶・磁器	平安時代の集落跡を確認。

要約	日向前遺跡において、平安時代時代の集落跡を確認した。縄文時代中期を主体に土器片が出土しているが、遺構を確認することはできなかった。

町　山本　日向前遺跡

町道752号線箕輪町南小河内立町線拡幅工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書伴

発行日　平成21年3月27日
編集者　箕輪町教育委員会
印　刷　株式会社プリンティアナカヤマ
〒399-4511　長野県上伊那郡南箕輪村神子柴7731-1
TEL 0265-72-2257　FAX 0265-72-5155